

高知大学演習林の近況（令和6年度）

高知大学農林海洋科学部附属
暖地フィールドサイエンス教育研究センター森林生産環境部門

本学の暖地フィールドサイエンス教育研究センター（以下FSC）では、演習林は「嶺北フィールド」（組織としては「森林生産環境部門」）、農場は「南国フィールド」（組織としては「循環型暖地農業生産部門」）として運営を行っている。今年に入ってから技術職員の退職や異動があり、補充人事が進むまでは演習林の人手は苦しい状況ではあるが、農場と演習林の間で技術職員の担当についての融通を利かせるようにするなど、FSC全体の運営方法についても配慮をしていただき、実習や研究支援に支障がないように業務を進めているところである。今回の近況は、今年度当番校として実施した「中国・四国・近畿地区大学附属演習林等技術職員研修」について報告する。

11月12日（火）に高知大学物部キャンパスにて令和6年度中国・四国・近畿地区大学附属演習林協議会が開催され、7大学19名の出席があった（うちオンラインは6名）。夕方の懇親会には12名のご参加をいただいた。翌日11月13日（水）からの技術職員研修には、京都府立大学から1名、鳥取大学から1名、高知大学から職員1名、大学院生1名、学部生1名の計5名が参加した。今回のテーマは、2020年に嶺北フィールドで導入した森林3次元計測システム（OWL）による人工林の資源量調査などへの活用で、高知大学での活用事例の紹介や実際の操作体験と、他機関での活用事例などの情報交換を通して3次元計測システムの利用拡大について検討した。初日は高知県立森林技術センターの研究員にもご協力いただき、OWLの概要と使用方法などの講義を行った（写真1）。この日は演習林宿舎に泊まり、2日目の午前中は演習林にてOWLを用いた林分の材積計測や、スマホアプリによる造材された後の材積計測などの実習を行った（写真2）。昼前には演習林の北東境界に赴き、風力発電建設予定地付近の踏査を行った。この背景として、数年前に演習林の稜線付近に風力発電建設許可の打診があり、大学としては演習林内への建設やそのための林道使用は拒否したものの、隣接地に作られることとなり、すでに建設準備は始められていることがある。午後には、早明浦ダム湖畔の「湖の駅」で昼食を採った後、大豊町で2019年から稼働している風力発電施設「ユーラス大豊ウィンドファーム」を見学した。夕方は物部キャンパスに戻り、FSC棟で懇親会を行った。翌11月15日（金）は午前中にOWL等計測のデータ整理についての実習と講義を行った後、解散となった。今回の技術職員研修は、告知が遅くなってしまったこともあり参加者が少なかったが、その分機材を実際に用いての実習ではそれぞれの研修生が十分な持ち時間で操作などを行うことができ、充実度は高かったものと思われる。関係各位にこの場を借りてお礼申し上げる。

（森林生産環境部門長 鈴木保志）



写真1 宿舎講義室でのOWLに関する講義



写真2 演習林でのOWL等による材積計測